

第1223回 高知市教育委員会 8月臨時会 議事録

1 開催日 令和元年8月3日(土)

2 教育長開会宣言

3 議事

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 市教委第32号 令和2年度使用高知地区小・中・義務教育学校教科用図書(学校教育法附則第9条の規定に基づく一般図書を除く。)の採択について

4 出席者

(1) 教育委員会	1 番教育長	山 本 正 篤
	2 番委員	谷 智 子
	3 番委員	西 森 やよい
	4 番委員	野 並 誠 二
	5 番委員	森 田 美 佐
(2) 事務局	教育次長	弘 瀬 健一郎
	教育次長	高 岡 幸 史
	教育政策課長	島 内 裕 史
	学校教育課長	溝 渕 隆 彦
	学校教育課副参事	西 田 尚 弘
	教育政策課長補佐	濱 田 光
	学校教育課学校教育班長	竹 内 清 貴
	学校教育課指導主事	入 江 洋
	学校教育課指導主事	佃 典 高
	教育政策課総務担当係長	神 岡 純 子
	教育政策課主任	西 村 夏 海

1 令和元年8月3日(土) 午後2時～午後4時40分(たかじょう庁舎5階北会議室)

2 議事内容

開会 午後2時

山本教育長

ただいまから第1223回高知市教育委員会8月臨時会を開会いたします。

日程第1 会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は西森委員、よろしくお願ひいたします。

西森委員

はい。

山本教育長

日程第2 市教委第32号「令和2年度使用高知地区小・中・義務教育学校教科用図書(学校教育法附則第9条の規定に基づく一般図書を除く。)の採択について」の継続審議に入りたいと思ひます。この案件は、8月末までの間、時限秘の内容となっておりますので、前回の7月定例会での審議と同様に秘密会といたします。

なお、採決については、種目ごとに順次審議し、決定していくこととしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

委員一同

—————【は い】—————

山本教育長

それでは、まず国語について、説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

全部で13種目ございますので、1種目ごとにご説明させていただきます。また、その説明をする際の各発行者の順番につきましては、文部科学省が作成しました小学校教科書目録にあります発行者一覧の順に沿ってご説明させていただきます。なお、それぞれの教科書には各社に共通する単元や教材を比較するため、色の付いた付箋をご準備しております。その付箋のうち、ピンク色の付箋につきましては、その教科書の特徴をお示ししております。今回の説明では一つの付箋について、担当の方から説明させていただきます。

それでは国語からご説明いたします。国語は4社のうちから東京書籍、教育出版、光村図書出版の3社が選定されております。黄色の付箋のページをお開きください。東京書籍は2年の上、43ページ、教育出版は2年の上、49ページ、光村は2年の上、50ページでございます。各単元のまとめについてでございます。

まず東京書籍をご覧くださいますと、「振り返る」、「言葉の力」、「いかそう」、「漢字」、「こんな本も一緒に」と、本単元で学んだ内容を詳しく示されており、特に他の2社にはない、「いかそう」という項目では他教科との関連も含まれております。

次に教育出版をご覧くださいますと、「ここが大事」、「振り返ろう」、「本を読もう」の三つでまとめられております。

また、光村図書出版をご覧くださいますと、単元で学んだ内容を、「たいせつ」、「この本、読もう」、「漢字」の三つでまとめられております。

こういった点が国語についてのご説明でございました。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

森田委員

ありがとうございます。この東京書籍さんの「いかそう」というのが、他の2社さんにはないというお話ですけども、やっぱりそれが現場の先生にとっては評価したい、というようなご意見があったということですか。

学校教育課入江指導主事

他教科との関連につきましては、今回、この新学習指導要領の中身にもカリキュラムマネジメントという大きな、その教科にとどまらず他教科との関連ということがすごく中に含まれていますので、そういったところをはなから教科書に明示されておりますと、先生方の指導にも非常にいかしやすくと考えております。

森田委員

そこが2社とは違うところというところ。

学校教育課入江指導主事

それも、子供の目線にも立っているといたところが特徴的かと。

森田委員

ありがとうございました。

山本教育長

東京書籍さんの、「国語のノートの作り方」26 ページの部分ですけども、こういうのは先生方が、効果がなくても子供たちに重点的に最初に教えるべきことですか。

学校教育課入江指導主事

ノートづくりというのは国語に限ったわけではない、各教科、他領域に対しても必要なことでございますので、特に国語においては、言語能力の基礎固めという意味ではとても大切なところになっているかと思えます。

山本教育長

それも東京書籍の特徴ですか。

学校教育課入江指導主事

特徴として挙げられるかと。主にピンク付箋でお示しさせていただきましたけども、特に全学年を通じてノートづくりには力を入れているかと。

谷委員

東京書籍の国語のノートの作り方、非常に分かりやすい作り方を例で示している。やっぱり書く力というのがすごくこれから学力の基盤となる重要なものでもあると思うので、こういうふうに表示を分かりやすく、子供に分かりやすく提示するということが、自分自身のノートの作成にすごく役に立つということで、とてもいいような気がしますね。

西森委員

私が特に注目したのは、資料を見て説明をするというような項目です。東京書籍でいうと5年生の226 ページ。東京書籍の5年生226 ページに「資料を見て考えたことを話そう」という項目があって、光村図書だと同じく5年生の151 ページに、社会で今までだったら使っていたようなグラフとかが出てきて、それを国語とも関連付けるというような項目が立てられています。これは恐らく新学習指導要領で提示されている科目間をわたって応用するというようなことが意識されている單元だろうと思います。今、手元にある教育出版の5年上にはその類いのことがないのですが、他のところで取り上げられているのかもしれませんが、この二つを比較したときに、光村図書というのは、かなり文字とか図表に慣れていないとちょっと難しいかなという印象があります。確かに、

こういう資料を見て意見を出し合い話し合えるぐらいになったら、すごい力がついているんだろうなと思うのですが、逆に言うと、そこまで持つていくにはかなり授業でのぼらつきが出るのではないかと、ということをおもったりいたしました。その点、東京書籍はさりげなくコメントが入っていたり、下で吹き出しがあつて、子供がちょっと参考になるようなことが入っていたりするの、ある程度入りやすい形で資料を見て、いろんな見方、多角的に見て分析をするというようなこと、作業がしやすいのではないかと、というふうなイメージを持ちました。現場の先生方のご意見を聞かないと分かりませんが、その後まで含めて、非常に子供たちの意見を引き出しやすいような構成になっているのではないかと、このようなことを感じました。

山本教育長

ほかに質疑等はありませんか。よろしいでしょうか。

3社ありますけれども、今出てきた意見の中で、東京書籍に関して一定高評価が多かったかなと思います。実際に使う教科書を決めていく必要がございますが、国語については、東京書籍で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、書写に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

では続いて書写でございます。書写は5社のうち、東京書籍、光村図書出版、日本文教出版の3社で選定されております。こちらの黄色の付箋の付いたページをお開きください。「点画の種類と筆遣いについて」でございます。各教科書会社とも、4年生でございます。

まず東京書籍の方をご覧くださいますと、運筆が示されているのがお分かりいただけますでしょうか。「トン、スー、ピタッ」といった擬態語を使って言語化してイメージを表現するなど、とても分かりやすい説明となっております。また、その関連ページも、42ページ右の方に、丸という言葉が小さく出ておりますけれども、こういった関連ページも記載しているため、振り返り学習にも活用しやすくなっております。

次に光村図書出版をご覧くださいますと、こちらは筆圧を分かりやすく数字で表現していることが、お分かりいただけるかと思います。

また、日本文教出版をご覧くださいますと、筆圧の強弱を写真で提示しております。

これが一つの付箋についてのご説明でございました。以上で書写についての説明を終わらせていただきます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

谷委員

今、説明のあった書き方の表記ですけど、日本文教出版は筆圧が強いのを、「グウッ、トン、チョン」となっていますね。光村の方は、数字で強さを表しておりましたね。そして東書の方は、「トン、スー、ピタッ、スッ」というような表し方をしていますね。案外、これは細かいことのように、子供たちにとってはすごく大事な書写の書き方の一つ、技術的なものを含めて重要だと思います。この日本文教出版の方は「グウッ、トン、チョン」。「チョン」というのは、続けて書いて止めるのではなく、「チョン」っと置くようなイメージがありますよね。「トン、スー、ピタッ」、「ピタッ」というのは、ここで止めるんだよっていう、子供たちに毛筆の使い方が分かりやすいのは、この東書。光村については、数字は何か分かりにくいですよ。子供たち。だから学習が楽しく、そして効果的に行えるためには、この東書の書写の方がいいのかなと思いますね。

西森委員

私が事前に見たりして興味をひかれたのは、「ポスターの作り方」という項目です。東京書籍の6年生25ページに、ポスターの書き方が2ページにわたってありまして、日文は同じく6年生の42ページ、それから光村図書は6年生の25ページになっています。ポスターを描くというのは、結構学校でやられるんじゃないかなという気がして、そういう意味で教科書に書かれているもので全てをやるわけにはいかななくても、比較的ニーズが高いという感じの項目ではないかと想像しております。そうするとこのページは結構重要という話だと思っております、端的に言うと、これも東京書籍は総合的な学習ということで、あえてオーストラリアを取り上げて英語社会に関連付けるような意識付けになっていて、次のページにはわざわざジャマイカのことを書いてあるという、工夫しようとしているなという感じがします。

それからポスターの描き方自体についても、光村図書さんのはあっさりしているなというか、これを見て真似するということまで参考になるかという、若干微妙かなという感じがして、日文さんのは、とてもすごく優秀な人が作るポスターというのはこうなんだろうなというイメージがありますけれども、それなりの説明はされているのかなと。そういう意味では丁寧かどうかという、やっぱり20、25はすごく丁寧、東京書籍のは相当丁寧に書かれていると思います。これだったら結構な数の生徒さんが、しかるべきところへたどり着けるのではないかと感じますので、そういう意味では誘導がすごく丁寧だなというふう感じたことでした。

以上です。

山本教育長

ありがとうございました。

森田委員

1点、事前に教科書を確認した際に思ったことですが、東京書籍さんの方に左利き児童への配慮があったという話で、私は自分自身、左でずっと書いていて、小学校入ったときに自分はマイノリティーだと、普通ではないとすごく思い、今は両方とも書けるようになっているのですが、今はもうどっちでもいいという時代にもなっていますが、そういうところではこの配慮は東京書籍の特徴なんですかね。そういう意味では10%以下とはいえますけど、左利きの方はそんな数%ではないので、その配慮があるところの会社さんは、1年生でこういう書き方も、僕もこれでいいんだというような、そういう肯定もあっていくのかなというふうに考えた次第です。

山本教育長

ありがとうございました。他は質疑等ありますか。よろしいでしょうか。

野並委員

たまたま今、自分のところが電子カルテを導入したので、やたらキーボードの世界になっているところですが。今日、実は面白かったことがありまして。大学からある若い先生が来られていて、入力が速かったのですがカルテを見ましたら、ほとんどが平仮名で書かれていました。変換していません。それは性格なのかもしれないけど、年寄りはやたら変換して、やたら漢字に持つてこようと、それで時間が掛かるわけですが、彼らはとにかく、さっと短い中でという。それを考えたときに、段々、そういう使い方になったとき、国語とか書写というのは、今このときしかやらないという意味の重要性が、どんどんこれから上がってくるのだろうと。例えば、書き順とか先ほどの国語の中で、常用漢字の書き順なんかがありましたけど、つまり、何か書いて、ぼんっとやればその漢字がぼんと出てくるわけですから。ああいうことを考えたときに、本当に今ここでやるのがどれだけ大事なことなのかという、書き順関係なしに、ただ形だけを仕上ればそれでいいというふうなことになるので、この書写とかそういうことの大切さが、どんどん上がってきているようなイメージがあります。これは心して選ばなければならないというふうに思ったことでした。

以上です。

山本教育長

ありがとうございました。

谷委員

年間通して使うものだから、表紙も大事。イメージが全然違うのよね、3社。やっぱり魅力的で手に取りたいと思うのは、三つ比べたら東書ですか。子供がすごくひかれるのではないかと思う。いいと思いますね。

山本教育長

大体ご意見いただいたと思います。やはり、お話の中では、東京書籍を評価する声が多かったように思いますけれども。それでは書写については、東京書籍で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、社会に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

続いて社会でございます。社会は3社のうち、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3社全てが選定されております。まず青色の付箋がついたページをお開きください。各6年生の教科書になります。単元としましては「戦時中の子供の生活」を扱ったものでございます。

まず東京書籍をご覧くださいますと、写真や表など児童の思考を促すように資料が精選されており、太文字など本文が効果的に配置されております。

次に教育出版をご覧ください。こちらは中心資料となる写真や、「ドングリと戦争」といった資料をできる限り大きく取り扱い、児童の意欲や興味を高めるような工夫がなされております。また、これらとともに、児童の思考を促す資料やコーナーなどが、効果的にバランス良く配置されております。

そして日本文教出版をご覧くださいますと、こちらにも精選された資料に加え、「学び方、調べ方コーナー」があり、児童の見方、考え方を養う工夫が見られております。

以上が社会についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

西森委員

全般的なイメージですが、教育出版が、非常にビジュアルが鮮やかだなという印象があります。いずれの教科書も、非常にたくさんの資料を取り上げるという工夫がされていると思うのですが、何となく、当時の資料というようなものが多いような気がします。印象の問題かもしれませんが。そうすると当時の資料というのは、昔は写真がないので基本的に絵になってくるというか、感じがありますね。教育出版は全体に見ていて、当然、当時の資料もありますが、配置がいいのかな、すごく悪い意味かいい意味かを別にして、ぼーっと見れるとといいますか。小学6年生の子供にとっては先生の話の聞きながらですけど、こうやってぼーっと何か見るといえるのは、すごく大事なんじゃないのかなというか。お話聞きながらですよ。あちこちに、これ何が載っているのだろう、これは何だろうと思いつつ見るといえる、ある種、絵本的な取組は、物事が頭に入ってくるというか、そういうバランスがすごくいいというか、何か見えてしまうなという、楽しい作りになっているような感じがいたしました。すごく色が鮮やかだなぁという感じです。本文のところとかに、背景色付けられているものが入っているからでしょうか。文のところも、緑で文字の背景が入っていたりとか、何となく鮮やかな感じがしますよね。

野並委員

字が太いんでしょうかね。

西森委員

字も太いし、今、適当に開きましたけど、全体にきれいなカラーリングでコマが分かっている、それこそさっきのポスターみたいな。だから何かこう、めくって見てしまうという。

谷委員

見やすい感じですね。東書は白っぽいですか。

山本教育長

東京書籍は、一つの学年が何冊かに分かれていますか。

学校教育課入江指導主事

はい、公民と歴史で2冊に分かれております。6年生は。

山本教育長

それでこの厚さの違いとか。

谷委員

系統性からいうといろいろ見える方がいい。6年生だったら、政治をやって政治から歴史に入っていく、そのときに現代の政治の参政権の問題なんかを取り上げて、過去は選挙権が誰でも与えられているわけではなかったというのをさっき見ましたが、教出はそういう作りになっているから、いいなと思いました。

西森委員

先ほど字の大きさのご指摘がありましたけど、日文は確かに字が小さい。小さい分、情報は多分たくさん入っているんでしょうね。だから情報重視でいけば、日文さんのは、ひょっとしたら教出より多いのかもしれない。まずは興味を引き出そうみたいなことかというと、教育出版かなと思います。

森田委員

まとまっていないのに発言をして申し訳ないのですが、私は表紙を見ました。社会というのは、要するに昔のことを知り、今を考え、そして自分たちがどう展望するかということを見るときに、表紙のことだけを言っていますが、日本文教社さんのところは、これは今のこと、今の社会を表紙そのまま載せています。私はダイバーシティとかジェンダーとかそういうことばかり考えているので、これはもう今のことだけであって。例えば、東京書籍さんは新しいを目指しているのか、やっぱり本を書くときには表紙をどうするかと考えますが、例えば新しい社会で女性がポリスマンになっているとか、レジで男性の人がピッピッとやっているとかというような配慮をしていたり、それから、教育出版のところなんかはダイバーシティ、車椅子に乗っている人たちが話をしているとか、どこに向かおうとしているかを、東京書籍さんと教育出版さんはそういうことも意識しながら、わざとマジョリティーとは言い切れないようなグループも、どんどん載せていって考えてみようという姿勢があるのかなと思います。そういう考えることを促そうとする力をこの2社、東京書籍さんと教育出版さんはしているのかな。どっちが今いいかは分かりませんが、ちょっとそんな印象を持っています。表紙を見て思いました。あとは、高知県がよく載っているとか。やっぱりそういうのは嬉しいですね。

山本教育長

教育出版の5年生を開けると、5年生の224ページ、225ページ、土佐町の筒井さんの蜂とか。

谷委員

いいですね。やっぱり社会科は、人を大事にする教科ですから。

地元を取り上げてくれている教科書は、いいと思いますね。

山本教育長

それではいろいろご意見もいただきましたけれども、いかがでしょうか。表紙も含めて、教育出版を推す声が多かったかなと思いますけれども。

それでは社会については、教育出版で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、地図に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

続いて地図でございます。地図は東京書籍、帝国書院の2社のみとなっており、この2社ともが選定されております。地図は1冊のみで、児童はこの教科書を3年生から6年生までの4年間使用いたします。青色の付箋が付いたページをお開きください。「四国地方」についてでございます。東京書籍は29ページ、帝国書院が39ページでございます。

まず東京書籍をご覧くださいますと、地図記号の表記は数も豊富で絵記号なども工夫されており、要所にキャラクターによる児童の興味・関心を高める吹き出し等も工夫されております。

次に帝国書院をご覧くださいますと、地図記号の表記の色を変えたり、県庁所在地や市町村名の文字の大きさを変えたりなど、全体のバランスやサイズを見やすくする工夫がなされております。

以上が地図についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

野並委員

地図の見やすさから言いますと、帝国の方が明るいようなイメージがあります。感じます。ただこれは、自分の年齢的なこともありますので、どうなのでしょう。自分は帝国の方が見やすく感じますが、子供たちにとっての色彩というか、そのところはどうか考えればいいのでしょうか。こちらが良く見えますが。

山本教育長

東京書籍の瀬戸内海の辺りとかは、なかなか、文字との空間のところがあって、なかなか見づらいのかなと思います。

森田委員

東京書籍さんのこれだったら、大人の地図でも大丈夫な気がします。

あともう一つ、帝国さんの方に、地図マスターへの道とかゲームのような感じで幾つか載っていますが、そういうのが子供の心をくすぐりますかね。何かちょっと探検みたいな感じがしますけど。そういう議論は、先生方の方ではありましたか。

学校教育課入江指導主事

はい、ございました。今回、地図が3年生からの活用になりましたので、3年生の子供たちにとっては意欲・関心という面では、ゲーム性も加味したことで、地図マスターへの道、これをクリアしていくうちに、どんどん地図の世界にはまっていくという上で、非常に効果的な方法の一つかと考えています。

西森委員

見やすさとかいろいろありますけど、東京書籍は1冊の読み物にできるような、すごく面白いというか、地図の面白さ、地図の見方というのを伝えたいという強い意識を感じます。自分がすごく印象に残ったのが、例えば、東京書籍の75から78にかけての地図ですが、こういった古地図といえますか、世界の古地図、現在の世界地図。城博とかでも高知市の古地図で歩いてみようというような企画をやっている、本当に面白いんですね。ずっと見てしまうというか。ここがこうだったのか、というのが分かるという。今いる世界というのは、必ずしも固定化されたものでもなく、昔の人は全く違う世界を見ていたというようなことが分かったとか、そういうようなところとかですね。もう少しめくって81ページ、82ページ辺りにも、普通、数字で頭に入ってしまうかねないよ

うな、高さ・面積に関わるような問題というのも、ビジュアル的に持ってくるというか。資料として見ようと思ったときに、本当に学ぶことの楽しさを伝えようとする仕掛けが一杯入っているなどという感じがします。そういう意味では私は、東京書籍はすごく好感を持つし、あとやっぱり授業中に先生の話の聞きながら、一生懸命教科書を読んでいる子にとってはすごく面白いだろうと思います。他方で、フラットというか、そこまで色はないけれども、フラットなスタンスで作られているのが帝国さんかなという。生徒さんのどこに焦点を当てるかですね。クラスの中の多くを占めるのは、果たしてどっちなのかなということの思いながら拝見しました。非常にどちらもかなり明確に際立った個性があり、作り方にそれぞれの思想が感じられて、両方ともいい教科書だと感じました。

谷委員

私も同じです。帝国の 50 ページ、京都市の中心部の地図が出ていますが、これの下に、空から見た京都市中心部というのがある。この写真なんかはいわゆる平面的なものとかそういうことではなく、立体的な見方、碁盤の目の様子がよく分かるようになっている。こういうのは、社会科の見方として一つの重要な視点なので、こういうのを取り上げているところなどは、帝国もいいなと思います。

山本教育長

従来 4 年生だったものが、3 年生からになったわけですが、地図自体が 3 年生を意識して変わったと感ずるようなところはありますか。

学校教育課入江指導主事

当然、ルビの振り方について、もちろん 3 年生の子たちみんなが漢字が読めるようにというところもありますけれども、やっぱり段階を経て地理の世界に入りやすくさせるという意味では、両社ともそれなりの仕掛けがあるかと思います。

先ほど委員さんからいろいろご意見をいただきましたけれども、帝国さんの方がどちらかという点で優しめに設定されており、その色使いであったり文字の大きさの配慮とかいえば、より配慮は手厚くされているのかなというのは、調査・研究の方からも、意見としては挙がっておりました。

山本教育長

自分も先ほど指摘があったように、ルビの多さのところもそうですけど、自然災害のところも視覚的に見ると、東京書籍の方が見やすいような工夫があるのかなと考えたのですが、ただ、ぱっと全体を見たときのとつきやすさといえますか入りやすさの点では、やはり帝国の方がどの子にも抵抗がないのかなという感じはしました。

いかがでしょうか。二つ、それぞれ特徴があると思います。高知市の子供たちがこれへ入っていく中で、どれがいいのかなと。いかがでしょう。今までは東京書籍さんですか。

学校教育課入江指導主事

平成 26 年度から東京書籍、それより以前は、帝国書院でございました。

山本教育長

先ほどいろいろご意見もいただきましたが、双方の良さをそれぞれ評価していただきながら、子供たちというところで、見やすさなどそういう面でいうと帝国書院なのかなというようなご意見もあったように感じますけれども、どうでしょうか。

それでは地図については、帝国書院で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、算数に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

続いて算数についてでございます。算数は6社のうち、東京書籍、大日本図書、学校図書の3社が選定されております。黄色の付箋がついたページをお開きください。各社とも4年生の教科書になります。ここで単元というよりも、算数の学び方についての説明をするページでございます。

まず東京書籍をご覧くださいますと、全学年の学習の導入に、「学びのとびら」というページを設けて問題解決の過程における大切な視点やノートづくりについて、実際の授業を学ぶイメージを掲載しながら、よく分かるように子供たちに示されております。

次に大日本図書をご覧くださいますと、学習の進め方がよく分かるように、「算数まなびナビ」を設け、ノートの書き方・話し方・聞き方についても丁寧に示されております。

学校図書につきましては、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの学び方の柱を設け、学習の進め方を示しております。

以上が算数についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

森田委員

東京書籍さんの1年生のは、他と違うところとして、それこそ教科書らしくないといえますか、ワークブックみたいな感じですね。それがまたこれは特徴というか、私はこれをすごく面白いなと思いますが、先生はどうなのかということ。要するに1年生で算数嫌いになったら終わりなので。工夫をすごくしてくれているという印象を持ちましたけど、現場の先生はどうなのかなということと、あと学校図書の黄色の付箋のところで、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とありますけど、その辺りは、子供たちはどうでもいいのかなと。先生としては、「あっ、そうか」と思いますが。その辺りどうなのでしょう。これ、私が親だったら買いそうな気がいたしますが。

学校教育課入江指導主事

ありがとうございます。まず最初、東書の算数、1年生の教科書につきましてでございます。見た感じ確かに教科書らしくなく、ワークブックのように感じられますけれども、実際まだ1年生の子供たちは平仮名とか数字自体、これから学ぼうという中で手に取るものでございますので、今、お手元にあるA4版の特に大きい教科書ですと、直に見たままのものを絵と見比べながら、手元で同じ具体物を並べながら実際に書き物ができるとなると、非常に子供たちにとっては、効果的に学習が進められるのではないかと考えられております。また、調査研究員の方からも出ていたのが、実際の紙質について、本当に書き込むことを重視、消すことももちろん考えた上での紙質になっているので、「これは非常に子供たちにとって良い」というお声もたくさんいただいていたところでございます。

あともう一つ、学校図書さんの「主体的・対話的・深い学び」につきましては、各社ともいろんな意味で新学習指導要領で今のようなワードをあえて言葉に置き換えたり、また、あえて別の意味で子供たちに投げ掛けて別の言葉で置き換えたり、様々な形があろうかと思えます。本市の子供にとってそれを見てどうかということろはちょっと疑問が残るのでは、といったところです。

森田委員

特徴ですね。これは1年生だけですか。

学校教育課入江指導主事

1年生だけです。

森田委員

2年生からは、同じこの大きさになるのですね。

学校教育課入江指導主事

はい、この同じ大きさのB5版になります。今回初めて、1年生はA4版です。今まではB5版に揃えていました。

谷委員

本市の子供たちの算数の力を一層伸ばしていかなければならないと思うので、そのために本市の子供たちに適した分かりやすいといいますか、意欲的になれるようなものが何かないかと思いました。例えば、「何番目」というのが3社にありますけれども、この三つを比較すると、東京書籍、学校図書、それぞれ可愛いイラストで、子供たちが意欲的に学べるようになっています。低学年は「前から何人」とか「後ろから何番目」など、本当に分からない、すごく難しいのです。こういう把握ができて次の2年生の算数にいくわけで、とても重要なところなんです。だからそれをこの三つと比較したときに、東書の「何番目かな」というのは、一番分かりやすい。見たら分かると思いますが、見やすいですね。ごちゃごちゃしていない。例えば、もう一つの大日本だったら、右の上の方に赤い帽子やタオル、水筒とかいろいろあります。学校図書なんかの場合は、絵がたくさんあって、ごちゃごちゃしてますでしょう。「何番目」というのを意識するときには、いろんなものがありすぎると、子供はそっちに目が行ってしまって集中できない。案外分かったようで分からないまま、次の単元にいつてしまうということがすごく心配なので。それを考えたときに、これはすごく分かりやすいし、1年生ということで広がっているんですね。だから、書き込んだり色々できるもの、適切だと思います。

それともう一つ、普通の教科書の最後というのは、大体何かちょこっとした絵があって、名前の欄があって、それから制作・著作者の名前があって、という感じですよ。東書の場合は、「保護者の皆様へ」というのを大きく取り上げているんですね。ここに、今でいう学習指導要領における思考・判断・表現力、こういったものを意図してきちんと作っておりますということを書いている。教科書は保護者も見ますよね。保護者にもこういうことを分かってもらおうという、4年生もそう、6年もそうですよね、全てに「保護者の皆様へ」となっているので、こんなところなんかもすごくいいのではないかと思います。

山本教育長

ありがとうございました。

他と比べて東書は、1年生のところには文章題みたいなものがほとんど出てきていないかと思いました。ここは先生方が教える中で、気を付ける必要があるという気もしましたが、何か工夫などはされているのでしょうか。

学校教育課入江指導主事

特に低学年となりますと、絵で見ただけでは分かりにくいお子さんについては、手元にはできるだけ具体物を置きながら、というところで工夫はもちろん先生方はいたします。そんな中で、委員さんから出された意見のとおり、配慮という点では各社とも非常にありますけど、東書はすごくそういった点では、丁寧な配慮が見られるかと思います。

山本教育長

基礎を学ぶ上で、様々ないろいろ具体物を使い、子供たちは理解しやすいだろうと。

表紙の保護者への呼び掛けのところ、ここは少し疑問もありますけれど、やっぱり非常に見やすいし、訴えかけるというのもあるかと思います。確かに見ていて楽しいというか、子供さんたちに考えてもらうような形の東書については、教科書なのかなという気がしましたし、そういう意見が多かったのかなという気がします。いかがでしょうか。

それでは算数については、東京書籍で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、理科に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

続いて理科でございます。理科は6社のうち、東京書籍、大日本図書、啓林館の3社が選定されております。緑色の付箋のページをお開きください。各社とも6年生の教科書でございます。「水溶液の性質の導入について」でございます。

東京書籍をご覧くださいますと、導入の際、子供たちが漫画を読み進めることで本單元における学習課題を抱く工夫がなされております。

次に大日本図書につきましては、見開きで大きく鮮明な写真を用いるなど、子供たちの興味・関心を高める工夫がなされており、また、右上をご覧くださいますと、本單元に関連した5年生での既習事項や本單元で学習する上で注意をすべきことについて示されているといったような紙面構成となっております。

そして啓林館につきましては、身の回りにある水溶液から学習課題を持たせるような紙面構成となっております。

以上が理科についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

谷委員

今説明のあった「水溶液の性質」ですが、東京書籍は漫画的なものが多いですね。イラスト的な。理科はビーカーであるとか、そういう実験器具であるとか、いろんなものが出てくるのがいいので、東京書籍のこれは、本市の子供たちにはイラストより写真が良い感じはします。啓林館は試験管を書いています、大日本図書の場合、全ての5つの水溶液、無色透明なんですよね。炭酸水だけちょっと泡が出ているという、それぞれ無色透明なんだけど、それぞれの性質というものがどのようなものになるのか、臭いはどうなのか、熱した後はどのようなようになるのか、そういうのを調べていく、その最初の導入的なものとしても、この表記というか表示の仕方は、すごく学習意欲をそそる感じはしますね。

山本教育長

ありがとうございます。ほかに質疑等はありませんか。

西森委員

これは専ら印象ですが、啓林館は何となく読む部分が多いですね。読み物という感じがすごくあって、読める、良くも悪くも読める、読むという感じがいたしますけど、理科は読むのも当然大事、読む勉強も一杯しないといけないですけど、どちらかというところと小学校だと手を動かす作業が多いのかなと、実験を含めたりなんかして、あと生物もやってみたりとか。そういう意味では啓林館、読むのが好きな子はいいかもしいないですが、これも良くも悪くも情報が非常に多いし、文章で読み取ろうというような感じが強いなという印象を持ちました。あと二つはどうかというお話になってきますけど、結構、東京書籍も読まれますね。読みなさいという感じ。読みなさい、読んで分かります。それはそれでとても大事なことです、ビジュアル的なことでいうと、大日本図書は、読むよりは見るという感じですね。あと、手を動かすに当たっての注意事項みたいなことがいろいろ書かれているというか、手の作業をすごく丁寧にクローズアップして書いていたり、あるいは写真が載っていたりという印象があります。文章で物事を読み取って理解する力のある子にとっては、どちらでも苦ではないという話になると思いますけれど、これも本市の公立学校として、平均的に

みんなにいろんなことを伝えていくというときに、文字が多いのはちょっとしんどいかなという印象はあります。

この分野はあれですか、特に高知的なものはないですか。歴史とかだと結構出てきますけど。室戸のジオパークなど、載っていたりしますか、いずれかの教科書に。

谷委員

廃校水族館なども。

学校教育課入江指導主事

ジオパークはないですが、大日本図書の4年生の後ろに室戸岬はございます。

西森委員

ここにはないけど室戸岬がある。

学校教育課入江指導主事

その他としては、ご説明はしておりませんが、大日本図書の中には複数ページに高知の偉人など、具体的に言いますと3年生の教科書をご覧くださいますと、3年生の99ページには牧野富太郎博士、110ページには高知県立坂本龍馬記念館、また122ページには桂浜など高知県の資料が多数、大日本図書には掲載されております。

西森委員

坂本龍馬記念館のこれは日時計ですか。知りませんでした。

野並委員

南ロータリーの基礎、鯨時計とか鯨日時計ですね。

山本教育長

結構、2次元バーコードとかを使っているものもありますけども、ここの中でいうと、大日本の中ではそういうのがないのかなというふうな、そういうのは余り影響はないですか。

学校教育課入江指導主事

影響自体は特にないかと。これに付属のDVD、CD-ROMがありましたら、今はインターネットにも資料がございますので、特に大きな影響があるということではないと考えています。

森田委員

大日本は牧野富太郎先生とか発見した人たちのお話がある、ほかにもそういう科学者たちをたくさん載せていますか。こっちがかなり載せているとかありますか。

学校教育課入江指導主事

量的に多いのが大日本図書です。ほかの会社でも高知県を扱うところはもちろんございます。割合的に、大日本が多いかなと思います。

森田委員

発見した科学者のお話とかはどうなのでしょう。先日、知り合いの理科の先生と話をしていたときに、理科をただ単に暗記物で教えたくないし理解してもらいたくないと言われていて、要するに、法則を発見した人がどんな気持ちでとか、暗記物ではなく、そういう背景まで、「ああ、そういうことで発見したのか」とか、そういうことまでやるのが塾の理科と学校の理科との違いだと熱く語っていて、「ああ、そうか」と思いました。牧野富太郎さんとか、そういう人の人生というかそういうのもあれば、理科の面白さとか自分も何か発見できるかもしれないとか。

学校教育課入江指導主事

学者さん個人というよりもチーム的なものがあつたりはしますけれども、あとは皆さんご承知の山中伸弥先生が出ていたり、各社それぞれございます。

谷委員

大日本図書の3年、99ページに載っている牧野富太郎博士の「日本の植物の名付け親」、1ページ全部を使って、牧野富太郎さんのことを書いている。地元のことだから、こういうことから植物

に興味を持ったり、あるいはオーテピアの科学館に足を運んだり、牧野富太郎記念館に行ったり、いろいろ子供たちが野外で活動できるようなところに広がっていくのではないかと思うので、これはいいと思いますね。

山本教育長

いろいろ意見が出ました。これっというのが少なかった気もしますが、高知県について、たくさん扱ってくれているのは大日本という形。私個人的には、「楽しい」という書き方がありまして、あと、「新」という言葉とか、そういうのを比べると。

谷委員

「わくわく」もありますね。

山本教育長

ありますね。

谷委員

楽しい絵ですね。

山本教育長

そういうところなど、実際に見ていく中で、文字と写真とか図解のバランスとかなども、子供たちにとって抵抗感がないのは大日本なのかな、という気はいたします。

いかがでございましょうか。

それでは理科については、大日本図書で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、生活に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

続いて生活でございまして。生活は8社のうち、東京書籍、大日本図書、学校図書の3社が選定されております。緑色の付箋のページをお開きください。各社とも下の教科書になります。この生活は主に低学年、1、2年生で使う教科書でございまして、その中でも、「町探検のまとめ」についてでございます。

初めに東京書籍をご覧くださいと、まず誰に伝えたいかということをお子たちに考えさせる場面から始まり、その後の学習の流れは3年生以降の社会科などにつながる学びを意識し、活動の質が発達の特성에応じて高まっていくよう構成されております。

次に大日本図書と学校図書をご覧くださいと、町の人に伝えるための手立てが、丁寧に具体例を示しながら分かりやすく示されております。

以上が生活についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

西森委員

すごく素朴な疑問ですけど、学校図書の下の91ページ、次の93ページ、その次の95ページ、99ページまで見ましてですけど、学年は1、2年生ですよ。2年生が書いた設定なんではいけませんか。こんなに字がきれいですかと思ひまして。子供の目線から見たときに、例えば101ページなど見たら、違うというか、いや、書ける子は書けるでしょうね。賞取れるような子は、書けるでしょうけど。

谷委員

本当にすごくきれいですね。

西森委員

ですよね。超優等生のお手本という感じで。学校図書は他のページもわりと超優秀なお子様の字で、教科書なのでそれでもいいんでしょうけど。東書さんは今さっきのところかというと、82, 83の緑の付箋も説明いただいて、この字はこの字かなという感じです。次のページになると、やっぱりすごくきれいな字が書いているので。その次もそうですけど。生活の教科書というのは、どれぐらいの子供の目線で作っているのでしょうか。これぐらい書けるようになってね、と言われたらそれまででしょうけど、若干きついなという感じが。大日本図書はどうだろう。大日本図書は下89ページ辺り見ても、クラスにはきれいな子がいるね、字がきれいな子は上手ねとかというレベル。こんなものですかね。最初、学校図書を見ているうちにびっくりしてしまって、2年生のお手本か、というですね。そういう意味では、学校図書は取りあえず第一印象としては、とても優秀な子に向けた教科書をイメージしてできているのかなというふうに感じてしまったというか。これは社会と理科の導入に当たる科目だと理解しておりまして、ある程度とつきやすさは必要じゃないのかなというふうに思ったりもしました。これを子供目で見ると、僕らの仲間の誰々君が書いた、という目では見ないのではないのでしょうか。この辺はどうでしょうか。上手な子は上手だから、上手な子もいらっしやいますよね。

谷委員

東書の83ページ、この子供の書いたのが自然な感じ。普通こんな感じというか。ほっとしますね。僕も私も書いてみようかなという。立派な字が書いていたら、なかなか、特別にしっかりした上手な人しか書けないなというような、そういう感じはありますね。

それとやっぱり単元に対する狙いとか考え方、生活の目標から考えたときに、この3社見たときに、学校図書の場合は「みんなに伝えたいね」と書いています。大日本の場合は「みんなに教えてあげたいな」、東京書籍の場合は「誰に伝えようかな、何を伝えようかな」。生活科というものが自分自身であったり、そういう見つめる、そして、誰かに教えてもらうとかそうではなくて、自分がいろんなものを実際に体験し、それを自分自身の考えで伝えていく、それが生活科の狙いの一つ。そして、そうしたときに誰に伝えるか、まず誰に伝えようかと考える、何を伝えるか、それを考える、伝える方法、どうやって伝えようかと考えるという、この単元の目指す方向性というか、ここが一番の狙い、そういうものからいって、高知の子供たちというのは、「さあ皆さん、教えてあげましょう、みんなに伝えたいでしょう」というように、そうやって持っていても余りやる気が出ない。「誰に伝える、どうする、どんなことを伝える」と言ったら、「ようし」なんていう感じです。本市の子供たちは特にそういう感じがありますね。

山本教育長

森田先生の分野になるかもしれませんが、ちょっと有色人種が混じっていたり、車椅子の絵が多かったりというのは、東京書籍をぱっと見て感じたところです。

森田委員

家庭科とちよつとかぶるかもしれません。何かこういう現物があると盛り上がりませんか。

谷委員

どこにありますか。

森田委員

これは生活の下、東京書籍さんの10ページです。他のはミニトマトが絵になっていたりしていました。

山本教育長

いかがでしょうか。対象の子供さんたちの視点とかそういう中でいうと、東京書籍というふうなご意見もいただきました。決定をしたいと思います。

それでは生活については、東京書籍で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

【は い】

山本教育長

では続きまして、音楽に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

では続きまして、音楽でございます。音楽は教育出版、教育芸術社の2社のみが発行されており、この2社ともが選定されております。ピンク色の付箋のページをお開きください。

まず教育出版4年生の37ページでございます。こちらのページを見ていただきますと、カエルのイラストがあろうかと思えます。丸囲みの中にカエルのイラストが右のページにあります。こちらは実は、繰り返し学習や資料の活用により着実な基礎基本の定着を手助けするために、適宜全ての学年に構成で入っております。

次に教育芸術社4年生の2ページをご覧ください。こちらは目次の前に、1年間で学ぶ内容を視覚的に捉えられるページが設けられております。これが二つの付箋につきまして、各社が特徴としているところでございます。

以上が音楽についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

西森委員

教育出版の6年生50ページにオリンピック賛歌が載っていますね。なかなかタイムリーな仕掛けだなと思いました。実はさっきの算数でも、どこかの学校が昔の東京オリンピックとかと記録を比較しようというようなものがありまして、やっぱり2020を意識しているかなというイメージがありました。やはり東京オリンピックは来年ももちろんですけど、その後何年間かは、あのオリンピックでとにかく国中が「わあってなったよね」という記憶を持った子供たちが、向こう数年間はいると思いますので、そういう音楽に関することでどこかのきれいな曲を聴く、歌うというのもありますけれども、そういう自分たちにとってすごく印象深い出来事に関連して学ぶ、というのはいいのかなというふうに思いました。

あと、同じく教育出版の6年生の見開きですけれども、この教育出版はこのページでも見開きで、4年生は見開きで新妻聖子さんのそういうすばらしいパフォーマーからのメッセージがあって。6年生では辻井伸行さんからのメッセージがあって、いろんな意味で子供が考える機会になるような方が取り上げられていると思いますので、すごくいい取組ではないかと思いました。

森田委員

よさこいの写真は両方とも載っていないようです。4年生が「お祭り」を載せていますけど。よさこい踊りと写真。

学校教育課入江指導主事

私も探してみましたが、ありませんでした。

森田委員

そうですね。桂浜はこっち、よさこいがないぞと思ひまして。

山本教育長

紹介だけはありましたけど。

学校教育課入江指導主事

紹介だけはあります。

山本教育長

紹介だけはありましたけど、写真の方はない。

森田委員

阿波踊りは写真がありますけど。

山本教育長

小学校の音楽会に行くと、合唱のときになったら子供たちが振りを付けて踊ったりするので、すごく印象に残っていますけど、教育出版とか見ると、「例」のような形で、こう図解もあって、こういうのがあれば教えやすいのかなと思ひまして。現場に沿った形になっている気がしましたけれども。

谷委員

教育芸術社の「われは海の子」と教育出版の「われは海の子」を見比べてみると、教育出版の方が、色的にも歌いたくなるような感じが、やっぱり爽やかな感じがしますね。これはすごくいい写真だと思います。我が郷土、高知市の子供たちの写真なわけで、いいなと思いますね。

それと見ていたら、歌詞と曲調との関わりに気を付けて歌いましょうとか。教育芸術社の方は、解説がすごくたくさんある。「とまや」はこういうことです、「しお」はこういうことですと全部書いていて、この曲自体の感じを最初から教え込んで歌うというか、そういう感じが要所要所に出ていますね。教育出版の場合はそこまでしていない。むしろ音楽というのは、子供たちが自ら感じ取るものだという、そのためにやっぱり手立てであるとか、そういった関連の情報を提示してあげるという辺りに留まっているような感じがしますね。案外、音楽的な感性ですとか、大事なことなのではないかなと思って。特に音楽を専門にしてやってきたということではないですけど、そう思いますね、教育的なことから見たら。

西森委員

どっちがどっちというお話ではないですけど、私がつくづく見入っていたのが、いずれも6年生、教育出版では、10ページ「朧月夜」がたたみ込んであるページがあって、あともう一つの教育芸術社では、80、81というところに、ちょっと音楽の歴史というようなことで取り上げられているんですね。恐らくこういう、音楽の作曲家に向けて意識を向けていくのは中学校になってからで、小学校のときは感じるということが重視されているんだろうなと。その中でも若干、音楽を作った人ということの紹介があるんだろうなというふうに思いましたけれど。高野辰之さんと岡野貞一さんは取り上げられるんですね。子供心に不思議に思っておりました。文部省唱歌というのは、何なんだろうというふうにずっと昔は思っています。文部省唱歌、この岡野貞一、高野辰之、どういう人なのかとずっと思っていたのですが、やっぱりきちんとこういうふうに、すみません、知ってる人は知っていたのでしょうけど、私が子供の頃はかなり黒子的な感じのイメージだった方に、きちんと視点が当てられて、明治時代に日本がいわゆる近代化をしていこうというようなことをしている中で、学校制度を作っていく中で、活動された方たちだと思いますが、そういう歴史を学ぶ機会があるというのはいいことだなというふうに思いました。これがきちんと取り上げられる時代が来たのだと思って。すごく有名な名曲の中のゴールデンコンビみたいな方々ですよ。

谷委員

「朧月夜」にしてもやっぱり違うね。2社がやっぱり違いがある。

西森委員

そうですね。

谷委員

感性を豊かにしないといけないですね、音楽というのは。

西森委員

日が沈んだ頃というか、もう少しこの長野県の写真の方が、時間がたっている感じですか。

この教育出版の方は、まず見開きで、きれいな菜の花の光景を出して、高野辰之さんの生家近くにお寺の鐘があると。恐らく想像していたのは、この菜の花畑の2番ですかね。「鐘の音の」とい

うのは、要するにこれでしょうねというような、立体的なというか、イメージができてくるような仕掛けがされているんでしょうかね、きっと。上がお寺で下が教会ということでちゃんと宗教上バランスがとれている。

谷委員

見事ですね、これ。

西森委員

いいですね。

鐘の音というのがいまいち頭になかったですけど、この鐘なのかなと思ったら、イメージが出てきますね。

山本教育長

いろいろご意見が出たところでございますが、さて、どちらがというのは余りなかったのかなというふうにも感じるところですけれども、どういたしましょう。個人的には一親として見に行く機会もある合唱指導の中で、細かい点など指導しやすいような形なのかなというふうに思いました。絵を見ましても。

それでは音楽については、教育出版で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、図画工作に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

続きまして図画工作でございます。図画工作は開隆堂出版、日本文教出版の2社のみが発行しており、この2社ともが選定されております。緑色の付箋が付いたページをお開きください。それぞれ3、4年の下の教科書になります。単元といたしましては、「立体」「粘土」を扱うページでございます。

まずは開隆堂出版をご覧くださいますと、今までに培った造形表現能力や態度・関心が段階的に発展するように配慮がなされております。

そして日本文教出版をご覧くださいますと、発達段階を考慮した学習の目当てが設定できるように工夫されており、技術的に簡単な技法から少し高度なものまで学習できる等、2学年を見通して活動できる内容が盛り込まれております。

以上が図画工作についてでございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

教える立場からしてどうですか。なかなか自分たちが見てもどうなのかという、非常に分かりづらい評価ではあるわけなんですけれども、実際に生徒の立場として、教科書で教える上で使いやすいというのはどっちになるかということですね。

学校教育課入江指導主事

実は調査研究員さんからも、正直なところ2社は甲乙付け難いというのが感想でございました。両社とも特徴がやっぱりございまして、どちらかというとな開隆堂さんは中身をご覧くださいますと、思いっきり子供が活動する場面が多くあります。例えば体操服も全部が泥だらけになるような、おおっというような動きもあるようなものが開隆堂で、それには当然メリット・デメリットが考えられます。もう一つの日本文教社といたしますと、そこまで活動を大きくしなくても、子供たちが活動に入りやすいといたしますか、易しさ、丁寧さという点では日本文教社の方が、子供の授業の流れがステップ状に分かりやすく示されているのではないのでしょうか。ですので、本市の子供の実態に応じ

てといったときには、様々な特別な支援を要する配慮のお子さんもいるということを考え、教科書の中にそういった配慮は必要だという意見が調査・研究から出ておりました。

山本教育長

現場の先生が使いやすいというのがやっぱり大事で、高知市の子供たちに合っているということも大事なことではないかと。

西森委員

私は、鑑賞的な部分が日文の方にちょっと興味があるところがありまして、これもちょっと精査できていないですが、開隆堂さんの方は、いわゆるプロの方が作ったものはプロの方が作ったページにまとまっていて、子供たち、素人が作ったものは素人のページにまとまっているというイメージがあります。日文さんの方は、例えばピンクの付箋が付いていましたが、これは5、6年の24、25ページを見ると、自分たちで作って、とても上手な人たちだと思いますが、行き着く先の究極に例えば火焰型土器があったりとか、あとそのこのゴールにそういう非常に伝統のある陶芸があったりなどして。他にも見ていると、随所に、作って行って、変な言い方ですけど自分たちで遊んで、その先に何かあるのかという、先の部分が示されている場所があるような感じがしています。35ページ、どう解釈をしたらいいかわからないですけど、35ページに、時計の分解図の隣ですが、東海道五十三次の有名な絵があって、右側にはそれを立体化しているんですね。それ面白いですね。「美術と遊ぶ」と言ったら言いすぎかもしれないですけど、自分たちでやっていった先が芸術、芸術なのかな、これも、があるよというような。さらに、36、37ページという感じでいっても、そこにいろいろやっていった先に、すごいものがあるよということが示されているので、イメージを持つ子供は「よし、自分もそこまで行ってみよう」という気になるのではないかなという感じがします。そういう意味では、引っ張ってくれる教科書だなという印象を持ちました。

山本教育長

大体よろしいでしょうか。表現の部分の評価もいただきましたし、日本文教出版の方という形の評価なのかなというふうに思いますけども。

それでは図画工作については、日本文教出版で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では次に家庭ですが、前回の7月定例会において「市教委第31号 令和2年度使用高知地区教科用図書の採択について」でお諮りし、ご承認いただきましたとおり、家庭の審議につきましては、森田委員にご退席いただくこととなっております。恐れ入りますが、森田委員、ご退席をお願いいたします。

(森田委員退室)

山本教育長

それでは事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

では、家庭でございます。家庭は東京書籍、開隆堂出版の2社のみが発行しており、この2社ともが選定されております。児童はこの教科書1冊を5年生、6年生の2年間使用いたします。黄色の付箋が付いたページをお開きください。東書14ページ、開隆堂10ページ、「調理実習の導入」についてでございます。

まずは東京書籍をご覧くださいますと、下の部分に「いつも確かめよう」の欄において、調理の手順における基礎的、基本的な知識や技能の大切なポイントを、分かりやすく丁寧にまとめて提示

しております。そして少し飛びますけれども、巻末の143ページには、安全に調理実習を行うための注意事項を、分かりやすくまとめて示されております。

次に開隆堂出版についてでございますが、これから行う調理実習の基本的な流れや必要な器具を、分かりやすくイラストや写真で掲載されており、実際の調理実習にいかしやすくなっております。また、巻頭の6ページには、学習中の不慮の事故を防ぐため、安全・衛生・防災に対する配慮が示されており、子供たちがチェックリストを用いて確認をできる紙面構成となっております。

以上が家庭についてでございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

夏の涼しい過ごし方など、環境学習みたいなものも家庭科の時間に入っているのですね。

谷委員

そうですね。暮らし方ですからね。

山本教育長

自分のときには、こういうのはなかった気がいたします。

西森委員

家庭科はすごく重要さを増していっている科目だと思っています。変な話、最近のとにかく、対話的で深い学びなどで言ったときに、結構、家庭が基盤になっているというか、日頃の日常生活ができていのかどうかというか、それで本当、家庭ごとに差が出るというか。対話をして、生活の地に足のついたことを、料理だったり買い物であったりエコであったり、そういうことをやっているかどうかを試されるような、問題が全般に増えているという気がいたします。本来、そんな捉え方をしてはいけないのかもしれませんが。東京書籍の方はやっぱりちょっとそういう意味では、従来型のお裁縫と調理という話がすごく多いなという感じがして、開隆堂は、8ページ、9ページから、1日の生活というところからスタートして、最初はクッキングですけど、後の方になると、今ご指摘のあったような涼しい暮らし方とか、あと32、33ページとかには環境問題。今、どんな分野でもどのジャンルでも環境問題ばかりで、国語でも社会でも算数でも全部に出るというような感じの環境問題のことがきっちり取り上げられており、58ページ辺りからですかね、消費者生活、あと、グローバルみたいなことも確かどこかに出ていましたね、各国の料理のようなページ、74、75ページの世界の料理。美味しそうだなと思って、印象に残っていたのですが。75ページ辺りに、世界のこともあり、各県のお菓子の話もあり、そういう意味では、すごくグローバル社会のこと、あと、バリアフリーに関するいろんなことも載っていますけれども、123ページとかには、バリアフリーと言っているのか分かりませんが、そういったことについても、障害のある方、ダイバーシティとか、そういうことも書かれていますし、プログラミングのことも128、129ページで取り上げられていますね。従来の家庭科の枠に収まらない広い視野でのことが、開隆堂は強く意識されているような印象を受けました。

谷委員

私も同じですね。75ページに本県の高知県の芋けんぴが取り上げられているので、これも嬉しいなと思いますし、新しい学習指導要領で総則に示されている「情報活用能力の育成」、これにあつては128ページ、129ページの生活の中のプログラミング、こういうのを取り上げている、こういう資料を通して、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身につける工夫がなされているのではないかと思います。

山本教育長

開隆堂を評価する声が多かったのかなというふうに思います。

それでは家庭については、開隆堂で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

それでは次の保健に移る前に、森田委員に入室していただきます。

(森田委員入室)

山本教育長

では続きまして、保健に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

では、11番目の保健でございます。保健は5社のうち、文教社、光文書院、学研教育みらいの3社が選定されております。青色の付箋が付いたページをお開きください。各社とも3、4年生の「1日の生活について」を学ぶ単元でございます。

まずは文教社をご覧くださいと、導入に学習内容をイメージしやすい写真やイラスト付きのチェック項目を設けていることが多く、児童の学習への意欲付けと、一人一人に主体性を持って学習に臨むような工夫がなされております。

次に光文書院をご覧くださいと、各項目の冒頭にその授業の学習課題を明示し、学習の流れと活動内容が一目で分かるようになっております。

次に学研教育みらいにつきましては、統一感のある紙面構成で、分かりやすい記号などにより全体の流れを見通すことができ、学習を進めやすい構成となっております。

以上が保健についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

森田委員

この前、教科書を確認させていただいたときに、文教社さんが結構、最近的といいますか、熱中症の説明などが詳しいという特徴があったということと、メモをしていますけど、LGBTなんかの対応が文教社さんの方にありました。ページ数をちょっと確認できていなかったのですが、現代的というか、今のことを多く取り入れようとしている姿勢が文教社さんの方にあるというように解釈していましたけど、そうでしたか。

学校教育課入江指導主事

今回の各教科書会社において、保健の教科書が一番ページ数増が多かったということ、前に少しお伝えしたかと思いますが。特に心の健康、怪我の防止といったところが深くなっております。具体的には、怪我の手当ての仕方やストレスの対処法等です。特に先ほど委員さんがおっしゃったように、LGBTは、光文書院でいいますと3、4年生の33ページ、もう一つ、文教社の方につきましては、5、6年生の12ページでございます。光文書院の方はLGBTという具体的なところというよりは、大まかな捉えの性の悩みについての簡単な記述でございます。また、文教社がお手元のような形でお示ししております。実は、教科書にこういった性的指向の多様性について取り上げたのは初でございます、実はこの2社のみしか取り上げておりませんでした。

森田委員

結構知っているところで、これで自分が普通ではないと思う、性的マイノリティーの方を認めていいというような教育は必要だという議論でいうと、「発展」になりますけど、私はあっているのではないかと。結構誰にも言えないので、教科書にこうあると、ちょっとほっとするのではないかなというふうに思いますけれど。

谷委員

私もそう思いますね。こういうふうに「発展」のところに書いている、目にすることによって、やっぱりそういう子供たちが、自分だって自分らしくしていいんだという、そういう意識になっていく子供がいたら、本当に思いますね。教科書はそういう意味では、やっぱりいろんな子供にとって刺激を与える。だから、ここにあるということが大事だと思いますね。文教社の教科書。

そして思ったことのもう一つが、例えば、感染症とかいろんなことがあって、手の洗い方とかすごく大事だと思うのですよね。「体の清潔」というところを三つの会社を比較してみると、手の洗い方なんかを丁寧に書いているのはこの文教社かと。13ページにも手の洗い方を詳しく書いているし、11ページにも載っていますけど、清潔にするといったときに、具体的にこの手洗いができるかどうか、すごく大きなことです。そこを見たら、学研はあまり取り上げていないですよ。手に付いた汚れの中のばい菌はこうですよとか、手の洗い方も、上の方に少し小さくあるだけですけど。あと光文書院もそこまで詳しいものは出ていないですね。やっぱり清潔にするという意味では、こういう取り上げ方をしてくれている文教社さんはいいかなと思いました。

西森委員

さっきの性の問題でいうと、光文書院の方はもう少しふわっとした書き方ですね。そういう悩みを持っている人もいますよというような。光文書院の33ページ。これだとヒントとして十分なのかどうなのか、という話になってくるのかもしれないけれども。3年生、4年生で、その発達段階に合わせて、ここの記述でこうだということもあるのかもしれないですね。やっぱり早い最初の気付きの辺りはもしかしたらここかもしれないので、そういう配慮なのかなというふうには思いました。

あと、今回増えたと言われている部分で、怪我の防止とか、あと犯罪被害の防止といわれるページが、私はジャンルの的には一番気にはなりますけど。順番にいうと、学研だと6年生の26、27で、文教社だと「犯罪被害を防ぐために」、21ページから23まで、地域のことという概念で書かれていて、22ページに特にリスクというのでしょうか、書かれていますけど、わりとまとまって、ありがちなリスクは書かれているなという感じはしますね。文教社、応用として。多分小さいときから、1年生とかからも何回も何回も教育されていますよね。「いかのおすし」とか。5年生、6年生だと、どういう取り組み方をするのですか。もっと小さいときからやっているような気がしますけど。ただ、6年生なんかはどんどん自由も増えてきて、逆にいうと1、2年のときは、そんなに一人でお出歩いているのかなという気がしますけど、6年だとお出歩くことも多くなり、中学生になったら本当に自由行動が増える方が多いと思うので、改めてやる意味はすごく大きいと思いますけど。5、6年生でやっぱりこういうのをテーマにして、犯罪被害に遭わないように、というような授業など、されているのですか。

学校教育課入江指導主事

1年生を誘う言葉掛けの場合、「あめちゃんあげるからおいで」というように、低学年は物で誘われることが多く、高学年の場合、「お母さんが病院に運ばれた。一緒に行こう」等があります。結局は連れ去りという同じ目的で、そういったことが行われますので、学年に応じた指導というのは、実態に合わせてきちっと学校で指導しているということを知っています。

山本教育長

喫煙とか飲酒とか薬害のところがありますけれども、文教社は非常に写真などもリアル。本当にやめないかなというふうには、実感しやすいのではないかなとすごく思います。

それと、大体全ての教科書にありますけど、考えさせる質問があります。

文教社については「あなたならどうする」ということで、たばこを勧められたときにどうやって対応するのかという、具体的な形を書いています。他でいうと、喫煙の害、喫煙しないほうがいい理由というような形になっています。実践的なところでいうと、本当にたばこを勧められたときの断り方なんかを習っている方がいいのかなというふうには感じて。あとの飲酒のところもそうですし、

薬害のところでも同じような形と思うので。42ページのこの写真とか、本当に他のはホルマリン漬
けか何かの写真ですけど、これ本当にリアルだなと思ひまして。

西森委員

すみません、もう1点いいですか。この犯罪のところ、全部教科書共通といえば共通ですけど、
文教社で、こういう場所が9か所書かれていて、強調されているのは何かといたら、場所だと思
います。今日、「いかのおすし」の標語もどうかと思うところがあって、一番大事なのは場所を避
けることだと思ひます。起きる場所に行かないという。あの通りに入ったらもうアウトというか、
人目の多い所を通るに尽きるというか。そういう意味では、授業でも恐らくそうだと思ひますが、
危ない人に会ったら逃げましょうではなくて、危ない人に会ったらもう終わりなので、会わない場
所を通りましょうという、その場所を選びましょうということが本当に命を守ることだと思ひてい
ます。交通事故も結局、道路行政の問題がすごく大きいので、だから、そういう意味では、場所の
ことをきちっと強調して、1ページきちっととっているという意味では、文教社かなど。ただ、そ
うしたら、「いかのおすし」が何かちょっと違うね、と思ひますけれども。事故でもやっぱり
そういったところは、場所だということですね。そこは強調して是非やっていただきたいと思ひ
ます。

山本教育長

はい、大体よろしいでしょうか。文教社を評価する声が多かったというふうに感じております。
それでは保健については、文教社で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では続きまして、外国語に移りたいと思ひます。事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

では続きまして、外国語でございます。この度の学習指導要領改訂に伴いまして、小学校におき
ましては、3、4年生に外国語活動、あわせて、5、6年生に新たに教科、外国語科が新設されま
す。そのため、5、6年生の外国語科の教科書は、本市におきましても今回初めて採択を行うもの
でございます。その外国語は7社のうち、東京書籍、光村図書、啓林館の3社が選定されてお
ります。まず青色の付箋が付いたページをお開きください。東書6年生、89ページ。光村6年生、97ペ
ージ。啓林館6年生、89ページでございます。外国語科では書く活動がございます。

そこでまず啓林館をご覧ください。子供たちがアルファベットを書くための4本線がございます。
こちらは線と線の間が均等な一般的なものでございます。

それと比べて東京書籍、光村図書をご覧ください。上から2本目と3本目との幅が広がって
いることがお分かりいただけるかと思ひます。これは、小文字にはこの線の中に収まるものや曲線
のあるものが多いことから、全ての児童に書きやすい文字となるよう、特別支援教育の点から取り
入れられているものでございます。この様式は3、4年生の外国語活動に用いる文部科学省発行の
外国語活動教材で示されているものと同様となっておりますため、子供たちの学習が円滑につな
がり、書く活動にも取り組みやすいものではないかと考えております。

以上が外国語についての説明でございます。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

これはノートなんかも、こういう形のノートというのは出ているのですか。

学校教育課入江指導主事

はい、実は今お手元の方には、東京書籍のみが1冊別冊で付いております。こちらの方は、ち
よっと小さめのものにはなりますけれども、ピンク色の付箋も付けさせていただいているところ

ざいます。そこをお開けいただけたらと思います。こちらは主に、種類ごとに言葉や表現がまとめられている冊子でございます。児童が自分の伝えたいことを表現するために、自分自身のことや考え、気持ちを相手に伝えたり、言葉に表したり探したりするために、それらを活用いたします。児童の伝えたい学びたい気持ちをいつでも伝えられるような、参考書ではないですけども、手軽な辞書のような形で付属のものとなっております。ノートというよりも、見る参考書というイメージでございます。

森田委員

私が事前に、教科書を確認させていただいたとき、東京書籍はストーリー性を持っている、何か自分から始まっていく、自分から地域、日本、世界へというふうに視野を広げていくというストーリー性があること、それから別冊がある。要するに、辞書を持ってくる子も来ない子も分かりませんが、最低限、どこでもいつでも大人になっても、これを使えるのではないかというような、そういうのがあるということで、自分は東京書籍に丸を書いていたけども。二つ、書くことと話すことというのは、今までの英語教育ではちょっと手薄だったのではないかという話で、東京さんと光村さんは、書くところの線をちょっと広くしているのですね、そこが特徴ですね。それで、スピーキングに関して調査された先生方が、今、スピーキングをすごく促しているのではないかというような議論、どこも同じように、何になりたいかとか、促してはいる。そこにそんな優越はないですか。要するに、スピーキングを促すような仕掛けがあったらいいなと思ったんですけど。

学校教育課入江指導主事

分かりました。例えばではございますけれど、小学校の外国語の中で、スピーキングで決まり決まった例文をみんなで読みあう、読みあうというよりかはむしろ、習ったことを使って、子供たち同士がコミュニケーションをとりながらその言葉を実際に使う、といった場面をいかに設定するかということになるかと思しますので、やっぱり各単元といいますか、授業の終わりのまとめ方についても、最後どういった形のまとめ、活動で終わるかということころは、とても大事になってくるのかなと思います。

一つ参考になるのは、各社の黄色の付箋のページをちょっとお開けいただけますでしょうか。例えば一つ、「誕生日」を扱った単元のまとめの活動についてでございますけれども、東京書籍は特にお話ありましたように、ご覧いただきますと、これまで学習した内容をいかして、あくまでも単純に誕生日を聞きあうだけでなく、誕生日を聞きあって、それを基にバースデーカードを作成して贈りあうといった流れで、意図、目的をもって、その途中で話すということが方法としてあるような構成が大事になってくると考えます。そして話すことを目標に置くよりかは、あくまでも、子供たちはバースデーカードを贈りあうための途中の手段として、スピーキングがあり、書くという活動もあったり、というような流れが小学校では一般的かと思えます。東京書籍は、そういったステップをきっちりと3ステップで示されているというのが調査・研究から上がっておりました。

森田委員

そうですね。「This is a pen.」なんて、使いませんよね。

谷委員

今のお話の「バースデーカードを作ろう、贈ろう」というのですが、他の2社も誕生日を伝えあったり、そういうのがありますけど、東京書籍は、一つの単元のストーリー化が図られている。だから、まず挨拶をしよう。そして誕生日を尋ねる。欲しいものを尋ねる。そしてバースデーカードを贈ろう。ステップごとに段々と高まっていく。その中に、話をせざるを得ない、しなければならぬような場に置くとか、学習を持っていくとか。無理やり話さない、これ言いなさい、しゃべりなさいとかいうふうではなく、バースデーカードを贈るまでをステップ的にいく中で、話すということを身につけていくという。話さざるを得ない状態の中で身につけていく。これがすごい大事なことだと思うので、そういうステップができています。これは子供にとっても、こういうス

テップが学習に効果的だし、先生も英語を初めて教科書で指導するという外国語ですから、先生方にとっても指導しやすい、こういうふうに提示されていたらね、と思いますので、そういう意味ではそれが適切かな、東書が適切かなと思います。

西森委員

私も東書かなと思って見ていますが、端的に言うと、他の教科書は高度なのではないかなと思っておまして。昔聞いた話ですが、小学校時代の英語で大事なことは、嫌いにしないこと。中学校入った時点で「難しい、訳が分からない」となっていないことが大事だというふうに聞いたことがあります。そういう意味では、すごくシンプルでいいのではないかなと思っています。東京書籍は、見開いたら、どこのページでもいいですが、例えば6年生の38ページから39ページ、過去形が出てくるところですけれど、とにかく「I」というのは変わらないんだな、緑で、その一番下に「It」というのが出てくるんだ。「私」じゃないときは「It」なのかなとか。その後ろに「went」とか「enjoy」、「ate」、「was」などというような、日本語とはどうも順番が違うらしいもの、紫で出てくると。ここを入れ替えれば何とかなるというか、後ろの白いところも何かを入れ替えれば、間違ったらちぐはぐになってしまうでしょうけど、どこか、この3つを入れ替えると何とかなるんだ、というようなことが分かるぐらいのものになっていると。やっぱりそうでないと難しいと思います。これをやらなかったら逆に、昔私たちが中学校で習ったような「This is a pen.」とか、「You are a teacher.」とか、言わなくても分かっているようなことを、入れ替えて入れ替えて、積み上げ作っていくというふうにしなないといけないだろうと思います。他の教科書もそういった工夫もないことはないでしょうが、5年生の辺りから、取りあえず静かに聞いて、聞き取りましようみたいな、聴いて印を付けましようという感じのものになっていたりすると思います。私が想像するのに、昨今、若いときからとか幼児教育が盛んなので、クラスの中で「僕、英検3級持っているよ、すごいでしょう」みたいな子と、全くやったことないという子が混じっていると思います。そこでも多分真っ先に、格差が付けられるというようなイメージがあるので、なるべくそういう技能があろうとなかろうと余り関係のない、同じパターンに入れてフレーズを入れ替えれば、同じように発言の機会も与えられて、同じようにオクケーと言ってもらえるという、そういう授業構成でないと厳しいのではないかなというイメージを持っています。英語は本当に顕著に、家庭がどういうふうにそこまで取り組んできたかでもすごい差が付いて、その瞬間、苦手意識を持ちかねない科目だと思いますので、なるべく同じようなパターンでやれるのがいいかなという意味では、東京書籍でいいのではないかなと思います。

山本教育長

ありがとうございます。大体まとめていただいたのかなと思いますけれども、東京書籍を評価する声が多かったと思います。

それでは外国語については、東京書籍で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は ー い】—————

山本教育長

では最後になります、道徳に移りたいと思います。

道徳は余り大きくは変わっていませんか。

学校教育課入江指導主事

はい。実は検定は受けてはいますが、特に大きな内容の変更はほとんどなく、変更も少なかったのがこの道徳です。

山本教育長

それでは事務局の説明をお願いします。

学校教育課入江指導主事

では、特別の教科、道徳でございます。道徳科の教科書につきましては、先ほど少しご説明しましたが、前回採択が2年前の平成29年度でございますが、この度の学習指導要領改訂に伴い、検定がなされましたので採択を行うものでございます。道徳科は8社のうち、東京書籍、光村図書、日本文教出版の3社が選定されております。黄色の付箋のページをお開きください。各発行者、4年生の教科書になります。読み物資料「雨のバス停留所で」でございます。3社とも並べて見ていただきますと、一番右側に主題の「約束や決まり」や「みんなが気持ち良く」といった言葉が記されております。

そして東京書籍をご覧くださいますと、毎回、本文の最後にキャラクターが二つの発問例「考えよう」がある紙面構成となっております。

次に光村図書につきましては、本文の前に毎回、キャラクターの導入の発問例があり、そして本文の後、キャラクターが中心発問例や補助発問例を示す紙面構成となっております。

そして日本文教出版につきましては、本文の前に毎回、キャラクターの導入の発問例や中心発問に係る場面の様子、そして中心人物について示されており、さらに本文の後、キャラクターが中心発問例や補助発問例を示す紙面構成となっております。

以上が道徳についての説明でございました。

山本教育長

この件に関しまして、質疑等ございましたらお願いいたします。

先ほど紹介していただいた中でいうと、お母さんは単に注意をしたということですが、日本文教出版は、お母さんが怒っているみたいで怖いですね。

学校教育課入江指導主事

はい、列を横入りした娘に対して、怒っております。

山本教育長

ここの主題でいくと、怒っているというよりは教えているというところからすると、東京書籍という、150ページのこのお母さんの絵、それから光村の121ページ、止めたときの子供さんの表情、黄色の付箋が付いているところ。日文が52ページ、乗ろうとしている子供さんを後ろから止めている、顔は見えないけども。何かちょっと。

谷委員

道徳のこの教材というのは、こういうイラストであるとか、こういう表情一つ一つに左右されがち、子供たちが。すごく重要でしょうね、確かに。

山本教育長

子供に考えさせるためだからだと思う。

谷委員

日本文教出版だと、お母さんの顔というのは横顔であったりするので、いいですね。一番いいと思う、これが。文教出版の書き方、これはすごくいいね。

山本教育長

自分たちが読んでも、とても考えるようなストーリーばかりが載っているのかなと。正解が分からないのが、それがすごく良いのかなと思ひまして。

西森委員

この單元だけのことになってしまいますけど、光村図書は「みんなが気持ち良く」というタイトルで、日文は「みんなが気持ち良く」。「が」と「で」というのは結構意味が違うわけで、ただ光村図書は「みんなが気持ち良く」と言った後、123ページの発問では「みんなが気持ち良く過ごしたらいいな」と言っているんですね。若干鈍感だなというか。「で」と「が」の違いって、「みんなが」と言ったときは個々の人が主語で、一応、一人一人が主語なので、「で」と言ったときにはそ

れは集団なので、いろんな考え方がありますが、「で」なのか「が」なのかというのは本当に物すごくよく考えると難しい問題だろうと思います。

東京書籍のテーマ「約束や決まり」、これも考えると、約束なのか決まりなのかという、ここでもこうして、みんなおおむねそういう感じにルールがなっているけれども、極端にいえば、これ違反ですかとか、何かに反しているとか、規定がありますかといったら、恐らく規定なんかないので、正に道德なんですよね。感じ良く過ごせるにはどうしたらいいかという。変な話ですけど、法律違反じゃないけど良くないことというのは一杯あるわけで、そういった部分を扱うのは正に道德なんだろうと思うのですが、そういう意味では、「約束や決まり」と簡単に言うのも何か、というふうに。一括に捉えてもやっぱりそういった、何となくそこら辺の考え方というか、ぎりぎり考えているのかなという感じがしてしまうので、文教出版のがこのテーマにおいては、一応完結はしてましたよね。「決まり」というときはどんなイメージを持ちますかというテーマで、これも、じゃあ本当によく考えたら決まりなのこれっていう。多分、国によたらばんやりしているのと、早い者勝ちでいかないと駄目じゃないという、生存競争の激しい国では恐らくそうなんですよ。だから、そういうようなことも含めて、比較的開かれた発問になっているのかなという印象は受けました。

山本教育長

最初に説明がありましたけど、これについては昨年検定を受けて扱い始めて、大きく変わってない中で採択決定というところで、今現在が日文を使っているということでもあります。

それでは道德については、日本文教出版で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

—————【は い】—————

山本教育長

以上で、一通り採択が終わりましたので、最後に確認をさせていただきます。まず国語につきましては、東京書籍です。続きまして、書写は東京書籍、社会は教育出版、地図は帝国書院、算数は東京書籍、理科は大日本図書、生活は東京書籍、音楽は教育出版、図画工作は日本文教出版、家庭は開隆堂、保健は文教社、外国語は東京書籍、道德は日本文教出版、以上でお間違いないでしょうか。

それでは、この内容で決定をいたしましたので、よろしくお願いいたします。

以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。これで、教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後 4 時 40 分

署 名

教育長 _____

3 番委員 _____